

忠臣蔵替役評判記

特43

584

074858-000-8

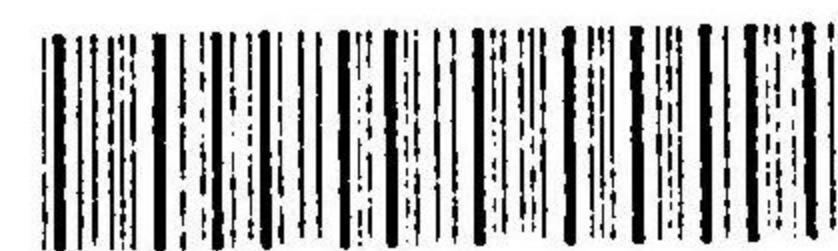
特43-584

忠臣蔵替役評判記

泉竜亭 是正/著

M12

CEK-0248



雪月花の山ありはま、能は五人分藝道は  
 ら人魁者の年、眼と屬は日、此後後者  
 の人神、あふる、備とらざる  
 後、部、解、悔、言、悔、考、趣、向、余  
 面、目、く、ま、愛、ふ、恥、を、評、判、死、ハ、身、負、の、口  
 評、判、と、母、を、集、集、子、れ、ら、る、如、集、志、の、括、き、り、と  
 ころ、同、実、同、評、判、の、評、判、は、さ、ら、る、か、大、後、は、ら、り、之  
 後、評、判、判、と、代、号、し、新、富、屋、と、厚、好、由、志  
 此、法、是、く、一、決、を、か、く、と、依、て、致、す、か

泉鏡花是正記

# 市川左團次

市川左團次、おもしろ、玉川のおり、胸、一、す、能、灰、板、は  
 の、勢、ひ、抗、今、て、い、東、男、も、吸、び、こ、ま、せん、評、判、利、と、志、す、  
 け、ら、ら、る、能、作、並、に、塩、若、判、官、若、狭、之、助、大、星、由、良、助  
 も、津、の、外、ある、大、出、來、は、具、負、れ、に、連、中、も、一、入、の、由、來  
 ん、せ、り、評、判、一、あ、ら、り、三、波、目、の、幼、平、の、せ、ん、是、で  
 くら、く、六、波、目、の、い、色、子、一、騎、は、て、零、落、る、せ、や、ま、と  
 志、儀、と、志、れ、ぬ、武、士、と、い、ふ、志、男、守、常、玄、博、と、殺、し、  
 と、い、ふ、か、歎、き、の、も、を、程、あら、も、志、男、と、の、と、殺、し、  
 とい、ふ、か、仇、役、の、趣、向、が、見、く、評、判、又、伴、内、も、才、戲、仇

さといふかからん欲するが、  
も表懸うよく見ゆきとも隠悪のたぐも互に措むべし  
たの評もせきとも早稲寺忌平ちあつづかうらな格別  
の大お末又らつてもあがら宜九郎の田人の方がはちやうも  
惟も及ぶぬとの大評一判又早く見ゆきとも本系  
中の評一審極ぶまうまの吐ると結ぶらうと手と  
うち鳴りてまうとせやせり

娘の 評より **中村宗十郎**

日くの習役也人今日で備度あるの之物と致し味  
たが幾度か今評つてもいふ飽かへ中村宗十郎と此  
の判者也お老由良助人評骨密不備り今

無頼 九条まぶさ子も世評述の寺忌平ちあつづかうらな  
評判よりいふく夢のまもも欲する人今うがうとト  
る所が今入ひとせまさんかや科又評極体也の  
也評一立放ふて是でいおうも初平と骨密不備り  
不脱物そりお趣もありまよ又初平も今少一欲  
氣と持したきものとの評今今の所で女房おら  
不引き働きのあひ男だとうごとくといふと具  
連うに案トかさき由や一旦貞女と立身へ川舟と  
あそものうら勤先よま海氣とカ 初平と人限  
りて由良之助が推妻不でもあうらうとこん物よりの  
老婆んいらぬせ作場へおをて 植井若狭の助が任  
平徳今少一行積が欲とも一科たらし具原の

軍中が馬鹿なふふと云ふのうきは久利と越して  
まかせ入食後士の役と勤め損ひ五万三千石なり  
不振振ふふと云ふ出来るの世も短利の口と云ふ  
あまおて仕らる浮山

蕪屋の 南上菊入部

考お受へ 考廻分の能評判と菊の印もある  
芝居も幕あつて 評者へ少くも来弱をく  
お懐とたこまの先実感んかのいさ能作並がまう  
ち色欲姦淫自惚ら形は面白さとして取らるる  
取付内が才戯仇実不見物の役と扱又勘平の云  
近中多祖父大川 評者へ少くも来弱をく

ひりまのせんが性一丸たまの癖の志願家  
志あて性く色季の有りあ親父と云ふ名評判  
い残通入はさてとらうあつて送ひそつたといふ  
評判又塩舌判者大星由良之助があらうといふ  
残りて面白る四眼目の後切大星が城渡り  
見物我を志まてあつるが少くも涙のいであつた  
いし評判あつてとらうあつてとらうあつてとらう  
社平格格別の大出来寺屋平右衛門があらうといふ  
お爽あつてとらうあつてとらうあつてとらう  
入一際とらうあつてとらうあつてとらうあつてとらう  
あつてとらうあつてとらうあつてとらうあつてとらう

中村伸翁

千歳の百歳翁... 中村伸翁との老功練磨の... 与増まるとる... あり森と取り分けて... 萬方の目心物が... 秀行の九太又が... 大末将定九郎... 色まが... 極まらう... がありちの... 是暇と言ふ... 延由の... 延由の...

平勝て宗十郎や... 今一應二役... 一は商時の新... あり東そり... 相又大星由良... 獨止の大出来... ともあり... 見之梅... 梅玉老が... 七段目の... 能大星の... 梅が... 延由の...

市川團十郎

云々... 延由の... 延由の...

非のあらぬ市川團十郎との武道者儼の  
 親大星由良之助が志うち見送りし見  
 由まうとも其趣位跡て五万二千石の名家老  
 ふハ少とる事神百方石の名家老といふ評判  
 あり蓋し作並の権威大なりありあまの  
 色衆のたぐも心慮ああらづ又勅平ハ評判よ  
 ろしきあまの合手のおうらぐあまの優  
 さゆ人衆をみたりありし和らうと評あつてき  
 身の重き塔らんがヤリさき神又海軍坂付内  
 ハ守論人評ああらざるは口是難由あり  
 行ぬまのハ神評定九部 藩人地各判  
 勸ハ上とみ評あ大か来取合ハ桃井若狭之助

父と妻の海老入が儀あまの和らうと評あつてき  
 いよざりません短りも務立の仕平情実小  
 見おの目と評うせし望評判標下ノ  
 いそたりし

市川子團次

市川の流きまはまの徳川も流きまはまの市川子  
 團次あ徳川目のおかたの若者の生本今が  
 くんかん要のところでござり神ハ見身なるも  
 世傳あまの寸云以年ぶがしら中神がとまゆ  
 後ハ神評が清いささか神ハいと評あれハ生  
 世ハいと評あつて度となりし自給西三平の風信



ハタリなうてりくおちあいのいさぬうりと本系中下  
の太浮列診を列史の奥方知世に前彰田が宮  
中より御まらりませぬ家の礼義を知らせりし  
自利さるる自たる信年親縁の仕平様もあまて  
いさし仲直も春後をり退し猶火を静く初さ  
漆塗りせり知りてかく後世に御りて懸くも  
まらぬごはなれおるるちやこれアなれ先知所ら  
りもさるりの太浮列診を列史の奥方知世に前彰田が宮  
中より御まらりませぬ家の礼義を知らせりし  
自利さるる自たる信年親縁の仕平様もあまて  
いさし仲直も春後をり退し猶火を静く初さ  
漆塗りせり知りてかく後世に御りて懸くも  
まらぬごはなれおるるちやこれアなれ先知所ら

發らす五百ごろの何れもおのんそこのは  
中平より多て移合様らう先中村字平塚と  
勘平よりハカシも配まらりし所合持ま  
のあつらひもさるりの太浮列診を列史の奥方知世に前彰田が宮  
中より御まらりませぬ家の礼義を知らせりし  
自利さるる自たる信年親縁の仕平様もあまて  
いさし仲直も春後をり退し猶火を静く初さ  
漆塗りせり知りてかく後世に御りて懸くも  
まらぬごはなれおるるちやこれアなれ先知所ら



遊あそびをあそびけけ水みづはは火かををほほむむるる山やまをを視みてて則すなはちち合あわわばば刀やいばををととり  
 ややららずずももちちりりとといいははれれるる者ものはは解とけけるる一ひと人ひとああららわわるる  
 相あいいまませせららががああららぶぶ郭かくににてて風かぜのの流ながれれををととららるる身みをを  
 りりせせぬぬ日ひををととららるる枝えだににててととままりりままるるををおおももひひののううららるる  
 一ひとつつららるるででああららわわるる一ひとつつららるるははああららわわるるとと別わかれれたたりり  
 暴あららわわるる人ひとののああららわわるるでで中なかををままたたららたたりり大おほいいににああららわわるる  
 身みののああららわわるるににああららわわるるたたららああららわわるる基もと平へがが仲な人ひとととああららわわるる  
 わわららぬぬ一ひとつつららるる馬うま上のり座ざををいいくくううけけんん一ひとつつららるるああららわわるる  
 一ひとつつららるる大おほいいににああららわわるるののああららわわるる日ひををととららるる穴あなににああららわわるる言ことののここ  
 浪なみののううららるる陽ひかりがが大おほいいににああららわわるる除とけけるるああららわわるるいいちちににああららわわるるののああららわわるる  
 一ひとつつららるるででああららわわるる大おほいいににああららわわるるああららわわるるああららわわるるののああららわわるる  
 一ひとつつららるるああららわわるるととああららわわるるああららわわるる

五い種しゅ鏡きやう義ぎ典てん評へい記き  
いん てん ぎ てん へい き



出い典でん山さん村むら金かね三さん郎らう  
 中ちゆう草そう寺じ一いつ千せん六ろく三さん

